

宮崎県気候変動適応センター通信 第29号

宮崎県の適応策の取組について～宮崎県総合農業試験場の取組～

今回は、宮崎県総合農業試験場で取り組まれている適応に関する様々な試験研究についてご紹介します。

- 県総合農業試験場では、地球規模での温暖化の進行が叫ばれる中、農水産業への影響を軽減するための技術開発に取り組むため、平成20年に場内に宮崎県農水産業温暖化研究センターを設置し、温暖化対策を中心とした気候変動への適応策の研究を実施しています。

● 温暖化を「活かす」対策の研究

- 本県の立地と気温上昇を活かす取組として、マンゴーをはじめとする亜熱帯性作物の栽培技術確立し、生産現場に普及してきました。
- 近年では、新たにライチ等の栽培技術確立に取り組んでいます。また、国内産への注目度が高いバニラの栽培にも取り組み、国外品同等の品質が得られることを明らかにしました。



温暖な気候に適する作物の研究（ライチ）

● 温暖化から「守る」対策の研究

- 温暖化による暑さに適応する新品種の開発や、異常気象から作物を守る技術開発に取り組んでいます。

【スイートピー】

高温による生育障害や曇天時の高夜温による落蕾（蕾が落ちて商品価値が無くなる）が問題となっていることから、難落蕾性品種の開発に取り組むとともに、より高温障害が発生しにくい品種の育成に向け、オリジナル品種の高温耐性を明らかにしました。

【ブドウ】

高夜温による果実の着色不良が問題になっていますが、枝に環状剥皮（右写真右上）を行うことで、本県平野部の栽培環境でも、十分な果実着色を得られることを明らかにしました。



高温に強い品種の開発（スイートピー）



処理区 無処理区

高温による商品価値の低下を防ぐ栽培技術（ブドウ）

● 今後の取組

- これからも引き続き気候変動を「活かす」、影響から「守る」研究に取り組んでいくことに加え、宮崎方式 ICM※の考えを基にした、化学肥料や農薬の適正使用や ICT を利用した複合環境制御による施設園芸の効率化、未利用資源を活用した資源循環型農業の実現など、気象変動の進展を抑制することに繋がる研究とあわせて、気候変動に対応した本県農業の実現を図っていききたいとします。

※ICM＝総合的作物管理・・・健全な作物づくりを基本に、化学合成農薬や化学肥料だけに頼らず、生物農薬や物理的防除などの様々な方法を組み合わせて行う栽培管理手法

宮崎県総合農業試験場 <http://www.pref.miyazaki.lg.jp/sogonogyoshikenjo/>

宮崎県気候変動適応センター

事務局：宮崎県環境森林部環境森林課 電話：0985-26-7084 E-mail:kankyoshinrin@pref.miyazaki.lg.jp